

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年6月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200074		
法人名	社会福祉法人 秀和会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	海の町
所在地	〒316-0002 茨城県日立市桜川町1-1-1		
自己評価作成日	平成22年11月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月24日	評価確定日	平成23年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1階にクリニック、2階病棟と医療面で連携のとれる環境となっている。 また、4階には同じ地域密着サービスの特別養護老人ホームがあり、互いに交流するなどの環境がある。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者と職員は、利用者一人ひとりの持っている能力を大切に考え、それらを活かしながら生活ができるように支援をしている。 クリニックや通所リハビリテーション、特別養護老人ホームが併設されており、クリニックと連携が図られ健康面でも利用者や家族等の安心につながっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今に寄り添い過ごす」など独自の理念を作り介護ステーションや玄関に掲示し職員一同実践できるように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員で作成し玄関に掲示している。 職員は理念カードを携帯し、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通じて、地域のボランティアや園児との交流はあるものの日常的に交流するまでには至っていない。	利用者は併設しているクリニックや通所リハビリテーション、特別養護老人ホームと合同で開催する行事に参加している。 近隣の保育園児が来訪しているほか、琴や尺八、舞踊、ハーモニカ、陶芸など地域のボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と交流が図れるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できるほどグループホームとして経験を積めていない。地域に貢献できるように日々の支援の中で認知症の理解を深め、実践経験を積んでいきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年11月現在、運営推進会議の開催に向けてメンバーの調整中。	運営推進会議の要綱を作成するとともに、委員の選定を行っているが、会議を開催するまでには至っていない。	運営推進会議を開催する予定となっているため、市担当者の助言を得るなどで早期開催が実現できるよう取り組むことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員よりアドバイスを頂けているが、事業所の取組みを積極的に伝えられてはいないので協働関係を意識して行っていきたい。	管理者は市担当者に利用者の状況やケアサービスの取組みを報告するとともに、運営推進会議の開催について相談をしている。 年3回、市主催の事業者懇談会に参加し、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作り、拘束をしないケアに向けての取組みを続けている。日中の玄関の施錠など課題を克服できるように努めていきたい。	マニュアルを作成するとともに、全職員が身体拘束の内容と弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 併設しているクリニックや通所リハビリテーション、特別養護老人ホームの利用者が玄関から事業所に入ることができるので、防犯のため家族等の承諾を得て玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作り日々の業務の中で見過ごさないように注意を払い防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に利用されている入居者もいる。社協の方も来館されているので意見など聞いて職員一同に権利擁護の考えを浸透できるように努めていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には理解、納得得られるように十分に説明し、疑問、質問を受け十分な理解を得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時などに意見を聞きできることはすぐに行っている。また、意見箱を設置し来ホーム時に自由な意見を聞けるようにしている。	玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、利用者や家族等に説明している。 毎月、介護計画を家族等に説明する際に利用者や家族等の意見や要望を聴くよう努めるとともに、出た意見や要望は全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々の職員と面談し意見などを聞きよりよい運営ができるように努めている。	代表者は職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を出し易い雰囲気づくりに努めている。 管理者は職員から出た「利用者の座席」や「職員勤務体制」などの意見等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において職員給与規程や就業規則を整備しているほか、定期健康診断の実施など労働環境の充実に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設より8カ月ということもあり管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しきれていない。引き続きOJTやOFF-JT等の研修機会の確保に努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動には至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談した際、本人がその時置かれている状況やこれまでの生活を聴き本人の理解を深めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望を聴き、理解し信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聴き随時必要な支援ができるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯など本人ができることは行ってもらい、できないことがあっても職員と共に行い暮らしを共有できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人と家族が過ごす時間を大切に考え、家族への情報提供や急な外出への対応を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで行っていた外出の支援をボランティアの方と協力して行った、行きつけだった衣料品店への買い物等支援している。	利用者は併設している通所リハビリテーションに来た友人や知人と挨拶を交わすなどで交流を図っている。 利用者はボランティアの付き添いで通い慣れた教会に礼拝に出かけたり、家族等と共に行きつけの理・美容院や馴染みの店に外出に出かけている。 職員は利用者が希望する行きつけの洋服店や文房具店に買い物に出かけられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の生活してきた環境に配慮し、場合によっては職員が間をとりもつように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の居宅介護支援事業所などへの情報提供退所した家族からの連絡に対応し退所後も本人の状況を把握するように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者と生活を共にすることで本人の希望や意向を会話や表情などから把握できるように努めている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を参考に、思いの把握に努めている。 思いを伝えられない利用者は、日々の係わりの中で表情やしぐさから思いを汲みとり、希望にそった生活ができるよう取り組んでいる。 介護相談員が定期的に利用者とは面談し、職員は介護相談員から気付きとなるアドバイスを受けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の協力を得て、生活歴や暮らしの情報として入所以前の情報を把握し今の生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の様子や生活の様子などでいつもと違うことがあれば記録に残すようにし、職員間で情報の共有ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から生活全体の意向などを聴きケアプランを作成している。また、サービス担当者会議を開催しその時々課題について話し合う場を設けている。	職員は会議で利用者に関する課題を持ち寄り情報を共有し、利用者や家族等の意見や要望を取り入れて介護計画を作成している。 介護計画は利用者の現状に即して定期的に見直すとともに、コピーで家族等に報告している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンで情報を一元的に管理し時系列に入居者個々の情報を毎日確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面、健康面に関してはクリニックと連携し、早期の受診など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターには随時相談など行っているが近隣の社会資源との協働まではできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聴き随時必要な支援ができるように努めている。家族の同意を得てかかりつけ医を決定している。また、かかりつけ医以外の受診についても付き添いなどの支援を行っている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援するほか、家族等と職員で受診結果を共有している。 協力医療機関と連携し早期の受診を支援するとともに、体調不良時には迅速な対応をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化でも看護職に情報を伝え、早期受診につなげている。また24時間の連絡体制もあり、入居者の体調急変時への対応につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二階に病棟があることもあり、入退院時の密接な連携、主治医からその後のフォローも受けられる環境になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のマニュアルなど作成し取り組みを進めているが早い段階からの本人、家族との話し合いとまでは至っていない。	重度化や終末期に向けた対応マニュアルや同意書を作成しているが、事業所ができること、できないことを早い段階から利用者や家族等に説明したり、話し合うまでには至っていない。	重度化や終末期に向けて事業所ができること、できないことを利用者や家族等に十分に説明するとともに、早い段階から関係者で話し合い方針を共有することが望まれる。利用者の状態に変化が生じた場合は段階に応じて意向を確認したり、関係者で話し合い方針を共有することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で消防署員の方を招き、救急救命の講習を行っている。また、急変時や事故発生時看護師や医師との連絡体制をつくり備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物全体の防災計画を作成中。地域との協力体制を築けるまでには至っていない。	災害時対応マニュアルを作成するとともに、防災委員会を設置して避難訓練計画を作成しているが、実施するまでには至っていない。定期的に設備点検を行い、緊急連絡網を全職員で確認しているが、災害時に備えて食糧品や飲料水などを備蓄するまでには至っていない。	消防署の協力を得て避難訓練を年2回以上実施することが望まれる。災害時に備えて食糧品や飲料水などを備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮し、人生の先達者への尊敬の念をもった、言葉かけや対応ができるように努めている。	職員は利用者の尊厳を守り、プライバシーを損なわねない言葉かけや対応に努めている。 職員は守秘義務について理解し、利用者の書類は事務室の所定の場所に保管するなど、取り扱いに留意している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の様子を観察し、その発言や行動などから思いや希望を把握し本人自らの決定ができるように努めている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のケアの中からその人の生活リズムを把握し、本人のペースで生活できるように努めている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度理容師来館し職員が付き添い好みの髪型になるように支援している。家族とも協力し本人の好みの衣類を着てもらってる。また、身だしなみなどに関して職員もアドバイスするなど支援している。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とともに盛り付けや配膳、後片付けなどを行い、また同じ食事を同じ食卓で食べることで食事の時間を共有している。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事ができるよう支援をしている。 利用者は自分の残存能力を活かしながら食事の準備や後片付け、テーブル拭きなどを職員と一緒にしている。 外食や季節毎のおやつ作りなどを取り入れ、食事が楽しめるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や医師とも必要に応じて連携し、水分、カロリー、塩分制限にも対応している。また、水分量のチェックを行い、水分補給の大切さを職員意識してケアを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、準備など必要な支援を行い、入居者自ら行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者のほとんどがトイレでの排泄行っている。パットに失禁してしまう方でも本人の様子を観察し随時トイレ誘導を行っている。概ね自立されているが失禁などのチェックをする際はより本人への羞恥心に配慮し行っていきたい。	職員は利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握するとともに、タイミングを見計って声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維をとってもらうなどバランスのとれた食事を提供している。便秘がちの方には医師や看護師と相談しその方にあった便秘薬の処方を行えるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する日や時間（午前、午後）はある程度決めているが、本人の希望やタイミングをみて入浴してもらっている。	入浴は3日に1回を基本としているが、利用者の希望にそって午前でも午後でも入浴ができるよう支援している。 体調により入浴ができない場合は、清拭や足浴などで対応をしている。 入浴を拒む利用者には担当者を変えて声かけするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを把握し本人のペースで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の仕分けを行い、その際に薬の種類や内容などを確認している。また、体調変化時に看護師や医師にその都度連絡し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などで（梨狩り、陶芸教室など）生活に楽しみをが持てるように支援している。また、嗜好品（おやつなど）も個々の好みを家族の協力で提供できている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人（ボランティア）の協力もあり定期的な外出や外食、自宅に行くなど行えている。日々の生活の中でちょっとした散歩や買い物等はさらに支援できるようにしたい。	職員は利用者一人ひとりの希望や体調に配慮しながら、サンデッキで外気浴が楽しめるよう支援しているほか、花見や梨狩りなど季節毎の行事を計画し、普段行けないような場所にも出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個人で管理してもらっているが外出時などの支払いは場合によって支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話など本人希望時に家族とも協力し行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間、居室に冷暖房完備し温度調節行っている。カーテンも遮光性の物を使用している。リビングにペンダントライトを使用し温かい雰囲気になるように配慮している。国道も近いが騒音も聞かれない。	共用空間は十分な採光を取り入れ、過ごし易い温度を保つように配慮している。 台所から漂うご飯や味噌汁の匂いが食欲を高めたり五感の刺激に役立っているが、季節の花や飾りつけなど季節感を取り入れるまでには至っていない。	季節の花を生けたり、季節毎の飾り付けをするなど、共用空間に季節感を取り入れる工夫を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設けてあり、1人になりたい、仲間で話したり、作業できる空間を用意している。また、ソファを置き寛げる場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参していただくように家族に説明し、協力のもと家具、テーブル、TVなどを置き本人にとって居心地の良い空間になるように努めている。	利用者は居室に使い慣れた家具や馴染みの物品を持ち込んだり観葉植物を飾るほか、入り口にカーテンを設けるなど、その人らしく居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下も広く、バリアフリーになっている。トイレも含め手すりも完備されている。また、居室やトイレの場所が分かりにくい方の為に目線の高さに表札のようなものを大きく書きトイレや自室の場所がわかりやすいように配慮している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない ○ 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが ○ 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム さくらんぼ

作成日 平成23年6月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	想定外の大地震もあり、早期に施設全体での避難訓練を行う必要がある。また、施設としての備蓄はあるもののグループホーム独自の食料品、飲料水の確保や協力体制の検討にも取り組む必要がある。	年2回、避難訓練を実施し災害時に安全の確保ができる。また、災害時の食糧品や飲料水を確保できる。	消防署立ち会いの、避難訓練を行い、課題や施設内での協力体制等を検討していく。運営推進会議などで地域との協力体制を検討していく。備蓄品の購入の検討し順次購入していく。	1ヶ月
2	12	マニュアルは作成されているが、看護師や医師との実際の協力体制が確立されていない。また、本人や家族への入居当初からの説明や同意の必要がある。	グループホームとしてできること、できないことを明確にする。協力体制を確立する。入居当初や随時、看取り介護について本人や家族と話し合う場が持てるようになる。	現時点でのグループホームとしてできること、できないことを検討する。医師や法人看護師と協議し協力体制を検討していく。また、職員間でもミーティングや会議で検討していく。	6ヶ月
3	19	建物の3階ということもあり季節感の取り入れが難しい面ある。四季を感じられるように職員配慮しているがグループホーム全体としての取り組みまでには至っていない。	入居者の方々が季節感を感じ快適に生活できる。	グループホーム全体もしくは各ユニットごとに季節毎のテーマを決め季節の花や飾りなど行う。また、プランターで季節の野菜などを栽培する。	3ヶ月
4	3	平成23年3月より運営推進会議を二カ月に1回開催している。	家族や地域の方、市職員と会議を行い、意見交換することでよりよいグループホームの運営ができるようになる。	運営会議を通して幅広い意見を取り入れる。	
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。